

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

資料3

<共生ビジョンへの反映方針>

- 【A】:WGで検討を行い、共生ビジョンへの反映を検討しているもの
- 【B】:WGで検討を行ったが、共生ビジョン反映については今後も検討を要するもの
- 【C】:共生ビジョンへの反映は難しい。取組について各市町、団体の判断を優先するもの
- 【D】:WG単位では検討を行えなかったもの
- 【E】:既に共生ビジョンに一部が含まれ、WGで検討しているもの

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
1	○地域ブランディングの浸透 ・各市町の特産品を浸透させる取組	事務局	各市町村の特産品を浸透させる取組について	特産品に関する取り組みは各市町によって優先度合が異なっているため、独自の方法を検討する必要がある。各団体(雪国観光圏等)の取組等で広報を行う。	C
2	○昔遊び継承による地域活性化 ・学校教育現場へ地域住民の参画を促す取組	事務局	昔遊びなどを通じて、学校教育現場へ地域住民の参画を促す取組	学校と地域住民との交流は、地区内の性格が強くなるものであるため、各市町のそれぞれの取組を優先する。	C
3	○目指すべき将来像 ・子育て世代や子どもたちが魚沼地域に期待が持てるような将来像を目指す取組	事務局	子育て世代や子どもたちが魚沼地域に期待が持てるような将来像を目指す取組	共生ビジョン全体が目指すところであり、圏域目標に含まれている。子育てWGを中心として具体的な事業について検討が進められている。	E
4	○地域医療に対する地域住民の意識醸成と宿泊施設との連携 ・医療機関の使い分けや、医療従事者育成に向けた住民の理解を深める取組 ・宿泊施設と連携することで、圏域内での泊数増、着地型観光へつなげる取組	医療・介護・福祉	医療機関の使い分けや、医療従事者の育成について、住民の理解を深める取組	地域医療魚沼学校において、医療機関の使い分け等について地域住民の理解を深める取り組みを強化している。	E
		観光	魚沼基幹病院へ研修に訪れる学生、研修医、専門医など医療従事者を対象とした、観光・宿泊の提案	・ターゲットが狭く、有効かどうか判断が難しい。 ・市外に本社等を持つ事業所に市町の総合パンフレットを配布する。観光プランの提案は旅行業を持つ市町の観光協会で行うなどしている。 ・各市町の施策として取り組んでおり、連携が難しい面も多い。	C

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
5	<p>○医療従事者の確保として「魚沼地域医療従事者養成連携協議会」の設立</p> <p>①医療職を目指す児童生徒を増やすための働きかけ                  ②小出高校医療専攻を中心とした魚沼地域の高校生が、北里大学保健衛生専門学院を經由して地元就職することを目的とした奨学金制度の構築                  ③地元医療機関への就職希望者を対象とした、専門学院の推薦入試制度(地域枠)の設定                  ④臨地実習の充実による学生Uターン就職の促進                  ⑤専門学院同窓会との連携によるUターン就職の促進                  ⑥都会で就職した社会人を専門学院等への社会人入試に導くための指導・相談体制充実</p>	医療・介護・福祉	<p>医療従事者確保に対する取組</p> <p>○組織の形成                  「魚沼地域医療従事者養成連携協議会」の設立 など</p> <p>○学生等に対する働きかけ                  ・医療職を目指す児童生徒を増やすための働きかけ                  ・小出高校医療専攻を中心とした魚沼地域の高校生が、北里大学保健衛生専門学院を經由して地元就職することを目的とした奨学金制度の構築                  ・地元医療機関への就職希望者を対象とした、専門学院の推薦入試制度(地域枠)の設定                  ・臨地実習の充実                  ・専門学院同窓会との連携                  ・都会で就職した社会人を専門学院等への社会人入試に導くための指導・相談体制充実 など</p>	<p>【南魚沼市】看護職員として地元就職希望者に対する奨学金を検討中。平成30年度開始予定                  魚沼市、湯沢町は実施中                  【魚沼市】地域医療魚沼学校で講座開催</p>	A
		商工(UIJ就職)	UIJターン就職について、医療職種に焦点を当てたプロモーションの検討	<p>看護師の就職ガイダンスは民間がまとめて行っているため、2市1町としては就職希望者に対してその情報を提供する程度である。今後は求人側(基幹病院等)に対しても就職ガイダンス開催の情報を積極的に提供する。</p>	C
6	<p>○教育委員会の連携、学校教育現場への住民参画の推進</p>	事務局	教育委員会の連携、学校教育現場への住民参画の推進に関する取組	定住自立圏としてではなく、各市町の教育関係者(教育委員会等)の間で取組を行う。	C

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
7	<p>○教育・スポーツ分野の振興</p> <p>①圏域内のスポーツ拠点において、東京オリンピックに向けた合宿地としてPR活動の実施</p> <p>②県内でも特色のある八海高校、国際情報高校等の定員割れを解消するため、PR活動や魅力あるカリキュラムを検討</p> <p>③地域を越えて、保育園、小学校、中学校等へ運動指導者等の人材を派遣</p> <p>④特色ある分野を中心としたワークショップを開催し、魚沼地域出身の高校生、大学生等の育成や発掘を検討</p> <p>⑤集客数を向上させるため、地域住民合同のイベント開催</p>	教育(スポーツ)	圏域内のスポーツ拠点において、東京オリンピックに向けた合宿地としてPR活動の実施	合宿地の要件に該当する施設が少なく、難しい。	C
		教育(スポーツ)	地域を越えて、保育園、小学校、中学校等へ運動指導者等の人材を派遣	スポーツ団体等からの指導者の派遣など、人材確保と情報共有に努めたい。	C
		圏域連携(人材育成(地域))	特色ある分野を中心とした地域住民の合同イベント(ワークショップ等)を開催し、魚沼地域出身の高校生、大学生等の育成や発掘を行う取組	各市町で独自の人材育成に関する取組を行っているため、WGとしてはそこで育成した人材を交流させる面で連携を検討したい。	B
8	<p>○UIJターン就職促進と若者の起業支援</p> <p>・若手起業者を全面的にバックアップする取組</p>	商工(UIJ就職)	若手起業者を全面的にバックアップする取組	既に2市1町で独自の起業支援の取組を行っているため、当面共通の支援施策は難しい。	C
9	<p>○新エネルギーの活用</p> <p>・地熱、雪等の地域資源を活用した取組</p>	新エネルギー	バイオマス以外の再生可能エネルギー(地熱)や雪エネルギーを活用する取組	「雪のくのにの発電」事業が中心だが、それ以外の新エネルギーについて、2市1町の情報交換を含めて、今後の検討材料とする。	B
10	<p>○カーボン・オフセット推進とクレジット活用</p>	新エネルギー	カーボンオフセット推進に向けた取組(カーボンオフセット事業の推奨、特産品に係る事業者へのクレジット販売)	省エネ等、環境負荷の軽減に向けた取組として環境省が推奨しており、2市1町各自での取組とする。また、今後も部会でも情報提供としての検討課題の1つとする。	B

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
11	○子育て世代の交流促進と効果的な情報発信 ・子育てに関する情報を連携して効果的に発信する取組 ・お母さん同士が情報交換できる交流の場を、各市町域を超えて連携して進める取組	子育て	子育て情報発信・交換の広域化に関する取組 ・子育てに関する情報を連携して効果的に発信 ・お母さん同士が情報交換できる交流の場の設置 など	ママ、パパ同士が情報交換や交流ができる場として「子育て広場」を各市町で取り組んでおり、相互利用・連携することで、さらに効果を高めることができる。「子育て広場」の相互利用のPRに合わせて、親子の遊び場や子育て情報を連携して発信し、楽しい子育て環境づくりに寄与したい。	B
12	○地域人材の育成と発掘 ・医療従事者、地域住民(学校教育、社会教育、地域づくり)の人材育成の取組	医療・介護・福祉	圏域として行う医療従事者の人材育成の取組	定着のためにスキルアップや、看護師の交流事業などを開催してはどうかとの意見が出たが、具体的な内容については今後の検討とした。	B
		圏域連携(人材育成(地域))	圏域として行う地域住民(学校教育、地域づくり)の人材育成の取組	各市町で独自の人材育成に関する取組を行っているので、WGとしてはそこで育成した人材を交流させる面で連携を検討したい。	B
13	○地産地消の推進	農業	地産地消の推進に係る取組	学校給食等で一部取り組まれている。公共で全て網羅するのは難しいが、直売所など、民間の動きを情報共有しながら検討したい。	C
14	○他の地域、圏域との差別化 ・自然や雪を売りにするだけでなく、他の同地域との差別化を図る戦略的な取組	観光	自然や雪だけでなく、圏域として他地域との差別化を図る戦略的な取組	雪国観光圏では、地域特性に向き合い、様々な地域資源を発掘し、つなぎ合わせ、磨きあげ、価値を生み出すことを目的としているので、その取り組みを優先させたい。	C
15	○地域医療連携推進事業について ・医師会との連携促進 ・医療従事職員の相互派遣 ・健康づくりへの横展開	医療・介護・福祉	「医師会との連携促進」を事業内容に盛り込むことについての検討	地域医療連携推進事業のため「医師会との連携」は必須である。あえて事業内容に盛り込まなくとも医師会との連携はこの事業を進めることで促進され、強化される。	E
		圏域連携(人材育成(職員))	医療従事職員の相互派遣についての検討	医療従事者について、南魚沼市では市、魚沼市は医療公社が雇用している。雇用形態が異なるため相互派遣は現状では困難。	C
		医療・介護・福祉	健康づくり事業を圏域として行うことの検討	健康づくり事業は、圏域で大きなイベントなどを実施したときのメリットは少なく、小さい単位で事業実施することで効果があがる。	C

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
16	○公の施設(スポーツ施設、文化施設)の相互利用について ・圏域住民への減免、免除の拡大 ・相互利用対象施設の範囲	教育	公共施設の相互利用について ・圏域住民への減免、免除の拡大 ・相互利用対象施設の範囲拡大	2市1町で相互利用の協定を結ぶに当たり、まずは発生する課題を整理し、相互の住民にとって不利益とならないように調整する必要がある。	B
17	○広域スポーツ大会誘致について ・事務局の統合と運営体制の一本化	教育(スポーツ)	広域スポーツ大会誘致を行うにあたっては、事務局の統合と運営体制の一本化を	目的を明確にして大会を誘致する必要があり、目的に応じた事務局体制づくりが求められるが、具体的な大会を想定できていない。	D
18	○UIJターン就職促進について ・民間で実施した就職体験イベントの広域開催 ・空き家などを活用したお試し居住の実施	商工(UIJ就職)	民間で実施している「就職体験イベント」を圏域で開催することについての検討	現在はインターン受入をしている企業が少なく、実施が困難。ただし、受け入れ先が徐々に増えてきている傾向にあるので、今後の検討としたい。	B
		圏域連携(UIJ促進)	空き家などを活用したお試し居住の実施についての検討	お試し居住は各自治体独自で実施している。連携して新たな取組を行うよりも、まずは各自治体での特色ある取組を優先していくが、UIJターンの候補地として圏域全体の魅力を発信していくことは必要。	C
19	○圏域観光情報窓口事業について ・2市1町で連携したプロモーション戦略	観光	2市1町で連携したプロモーション戦略の検討	2市1町を含む雪国観光圏で、より広域的なプロモーション活動を行っており、そこで地域の魅力を発信しているため、そちらの取り組みを優先させたい。	C

共生ビジョン懇談会からの意見等の反映状況

	共生ビジョン懇談会意見	検討WG	検討内容	検討状況	反映方針 (事務局案)
20	○木質バイオマス発電及び利用促進事業について ・発電方式の検討 ・ペレットなどバイオマス資源の利用促進と連携	新エネルギー	コスト・効率を考えた発電方式の検討	「雪のくいの発電」事業が中心だが、それ以外の発電に係る材料がある場合、新エネルギー部会としても検討材料とする。	B
		新エネルギー	バイオマス資源(ペレットなど)利用促進との連携についての検討	今後も集材可能量等を精査しながら、資源であるペレットの市場拡大と稼働率の向上によるコストの低減に向けた方策を検討をする。	B
21	○廃棄物処理施設広域化事業について ・排熱利用、子育ての場、健康増進を絡めた複合施設としてイメージアップ	生活環境(新ごみ処理)	排熱利用、子育ての場、健康増進を絡めた複合施設の検討	新ごみ処理施設建設地一般公募の説明会でも、排熱を利用した地域の活性化については可能であると説明をしてきた。熱エネルギーの有効利用は国の政策でもあるので、様々な面から施設の在り方を検討致したい。	B
22	○婚活支援事業について ・単発のイベントでなくシリーズで企画 ・魅力アップセミナーの導入	圏域連携(婚活)	単発ではなく、数回のシリーズで企画することについての検討	魅力アップセミナーを先行して実施し、その後シリーズでのイベント開催の企画を検討したい。	B
		圏域連携(婚活)	魅力アップセミナーの導入	魚沼市では既に実施しているため、今後は参加者を圏域内に拡大していくことを検討。湯沢町、南魚沼市の担当者による当該セミナーの視察等を実施し、有効性の確認や、実行の可否を検討したい。	A
23	○人材育成について ・自治体職員の相互派遣	圏域連携(人材育成(職員))	圏域内自治体職員の相互派遣についての検討	定住自立圏に限らず、首長の判断により災害などの事態にあつては相互派遣の受け入れ・申し出を行っている。	C
24	○二次交通整備事業について	圏域連携(交通)	二次交通の整備事業についての検討	雪国観光圏二次交通WGにて、グーグルマップへの路線バスのダイヤの掲載を検討している。状況を把握し、今後の検討とする。	B
25	○観光と交通の連携	圏域連携(交通)	「観光」ワーキンググループとの連携促進	未検討	B
		観光	「交通」ワーキンググループとの連携促進	交通WGでは、通勤、通学、通院という生活関連の交通について協議を行っており、観光客の2次交通とはかけ離れた論議となっている。2つを一緒に議論することは難しい。	B